

氏名 岩瀬 哲

本論文は、一般病棟において緩和ケアチームが提供した緩和ケアを客観的な評価ツール（Support Team Assessment Schedule: STAS）を用いて評価し、わが国ではまだ歴史の浅い緩和ケアチームの介入効果を検証した。本研究において、緩和ケアチームの介入によるがん患者の身体症状の改善を、緩和ケアチーム介入時と1週間後および最終介入時のSTASスコアの平均値をt検定を用いて検証し、以下の知見を得ている。

1. 評価尺度のレビューから信頼性の高い身体症状を選択した結果、解析に適応な身体症状は「疼痛」「口渇」「食欲不振」「嘔気」「嘔吐」「便秘」「呼吸困難」「全身倦怠感」「咳嗽」「腹水」「下痢」「不眠」の計12項目であった。
2. 研究の限界を踏まえた上で、本研究の結果を以下のように結論付けた。
 - 1) 一般病棟において緩和ケアチームは、癌患者の「疼痛」「吐気」「嘔吐」に対して有効な介入ができる。
 - 2) 一般病棟において緩和ケアチームは、癌患者の「咳嗽」を良好にコントロールできる可能性が高い。
 - 3) 一般病棟において終末期癌患者の「口渇」「食欲不振」「便秘」「下痢」「倦怠感」「腹水」は、緩和ケアチームが介入しても良好なコントロールを得ることが難しい。

以上、本論文では、わが国ではいまだ十分に評価されていない緩和ケアチームの介入効果を国際的に汎用されている評価尺度 Support Team Assessment Schedule (STAS) を用いて客観的に検証している。よって、本論文は、全国の一般病棟における緩和ケアチームの活動に対して有用な情報を提供していると考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。